

「考え、議論する道徳」の実装に向けた
学びの在り方について
道徳的行為に関する体験的な学習
「役割演技」の学びと可能性

令和8年4月28日(火)13:00~15:00

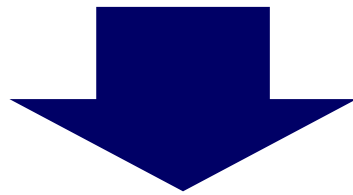
中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会

道徳ワーキンググループ(第4回)

渡邊真魚

はじめに

- 多様な学びの在り方を知る
- 多様な考え方に至る過程を体感させたい



様々な工夫 / 実践が想定される

道徳科における質の高い多様な指導方法について(イメージ)

平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議(抜粋)

	問題解決的な学習	道徳的行為に関する 体験的な学習
ねらい	問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う	役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う
効果	<ul style="list-style-type: none">● 出会った道徳的な問題に対処しようとする資質・能力を養う指導方法として有効。他者と対話や協働しつつ問題解決する中で、新たな価値や考えを発見・創造する可能性● 問題の解決を求める探究の先に新たな「問い」が生まれるという問題解決的なプロセスに価値	<ul style="list-style-type: none">● 心情と行為とをすり合わせるにより、無意識の行為を意識化することができ、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う指導方法として有効● 体験的な学習を通して、取り得る行為を考え選択させることで内面も強化していくことが可

※本報告では「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」も示されているが、現行指導要領においては、道徳科の特質を生かした指導方法の例として、上記二つが記載されている。

役割演技

学習指導要領(平成29年告示)解説『特別の教科 道徳編』

中学校 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い

第3節 指導の配慮事項

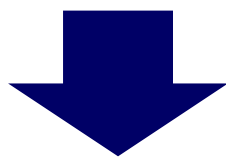
4 問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導

(2)道徳的行為に関する体験的な学習等を取り入れる工夫 (P97~98)

道徳的諸価値を理解するためには、例えば、具体的な道徳的行為の場面を想起させ追体験させて、実際に行うことの難しさとその理由を考えさせ、弱さを克服することの大切さを自覚させることなどが考えられる。また、道徳的行為の難しさについて語り合ったり、それとは逆に、生徒たちが見聞きしたすばらしい道徳的行為を出し合ったりして、考えを深めることも考えられる。さらに、読み物教材等を活用した場合には、その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習も考えられる。

これらの方法を活用する場合は、単に体験的行為や活動そのものを目的として行うのではなく、授業の中に適切に取り入れ、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるようにすることが重要である。道徳科の授業に体験的な学習を取り入れる際には、単に活動を行って終わるのではなく、生徒が体験を通じて学んだことを振り返り、その意義について考えることが大切である。体験的な学習を通して道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するための資質・能力の育成に資するように十分に留意する必要がある。

心理学的な知見からの役割演技



モレノ (Moreno, J, L.) が考案した心理劇の技法のひとつ (『心理学事典』より)

具体的に演じることで、

思考・感情・行動に働きかけることが可能

道徳科の授業での効果的な実践により、

自我関与、多面化・多角化を通じた

深い理解、深い考え(深い学び)に繋がることが期待

- 判断に迷い葛藤が生じる場面 (例)規則の尊重、公德心 等
- 相手の立場になって考える場面 (例)相互理解、寛容 等
- どう振る舞ったらよいのか迷う場面 (例)思いやり、感謝 / 礼儀 等

※役割演技を道徳科で活用した授業実践は多数ある。

一方、役割演技の実践には課題もある

《子どもの課題》

- いじめの場面等を演じることで、トラウマ・嫌な思いを呼び起こしてしまふことや、演じた役割が解除されず、現実世界に引き継いでしまふ可能性がある

《学級の実態》

- 学びの場面で安心して自分を表現できない環境(集団)であると、役割演技をすることそのものが難しい

《授業者の立場》

- 指導の目的や意図が明確でないまま実践してしまうと、演技の巧拙で終わってしまい深い学びに至らない

役割演技の流れの例

(「新版 学校教育事典」(2003)より)

(1) 役割演技をするための心身の状態を整える…**準備**

演者を募る(主体的に参加) / 観客としての学びを保障する(フロアからの気づき) / ペア活動を入れる

(2) 状況設定や役割設定をして即興で役割演技を行う…**演技**

(3) 現実の自分に戻ってそれぞれのドラマ体験を語り合っ共有し、ドラマ体験と現実経験の統合を図る…**振り返り**

役割演技は即興(状況設定のみ)で行う / 役割演技の後(演じた後)は演者・観客ともに全員で話し合う / 役割演技の後(学びのあと)は拍手を促して現実に戻す

※学級の実態に応じて実際の流れは多様である。

役割演技の留意点

(渡邊(2023)より)

(1) 演技の巧拙ではない

(2) 「気づいたこと、感じたこと、考えさせられたこと」を洗い出す

(3) 演じた後に、役割を入れ替えてみる

(4) 演者を変えて、演じた場面を比較してみる

(5) 教材の場面を再現する 「ちょっと再現してみましよう」

(6) 教材の場面を解決する 「この場面を解決してみましよう」

(7) はじめと終わりに合図をする

1コマで実施し、
学びを深める際の
時間的な課題



※再現の場合は振り返りも入れて10分程度、解決の場合は15分程度など、場面等によって取り入れ方は多様である。
また、長いプレイが良いとは限らない。

経験のある出来事を考える実践例

内容項目:「遵法精神、公德心」 教材:「空虚な問答」(日本文教出版社)

ねらい:「よりよい社会の実現は、周囲に配慮した行動により成り立つことを理解し、よりよいものに変えていこうとする実践意欲と態度を育てる。」

電車の中で座席を占有する場面で役割演技を導入することで、公私を考えた他者に対する配慮が深まる点に有効



■ 役割演技で場面を再現する

男性(立っている生徒)が中学生(座っている生徒)に声をかける場面を演じる

■ 教材場面の問題点を洗い出す

観ている生徒も自分の視点で考えを発言する

■ 役割演技で場面を解決する

「今日は、剣道の大会で疲れて(座席を占領していた等)頭がまわりませんでした。(目をみながら)すみませんでした。」という場面ができる

■ 演じた生徒に感想を聞きながら自分事として考えを深める

座っている中学生を演じた生徒の感想から、「いたたまれなかった」と発言が出る
※自分と重ねて演じる生徒が出る

経験のない出来事を考える実践例

内容項目:「よりよく生きる喜び」 教材:「よみがえれ!安波祭」(『ふくしま道徳教育資料Ⅰ 生き抜く・いのち』福島県教育委員会) ねらい:「人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間としていきることに喜びを見いだそうとする態度を育てる。」

小学校時代の友人と再会した場面で役割演技を導入することで、登場人物のすれ違う気持ちに共感する点に有効



■ 補助資料により登場人物の多様な背景を知る

同じ小学校から避難先で別々の中学校に通うふたりを知る

※多様な背景をもつ子供への配慮は事前に確認する必要がある。本時は震災経験者はなし。

■ 役割演技で間接的に経験する

小学校時代の友人に再会する場面を演じる

※楽しい、おもしろい(1年)、最初はうれしい...でも何を話せばよいか少し気まぎらくなってしまった(2年)等、発達段階によって学年により異なる反応があるため、児童生徒や学級の実態に応じた設定が重要である。

■ 教材の範読を聞きながら教材場面の問題点を考える

導入での役割演技を踏まえ経験のない出来事を自分と重ねながら考える

■ 道徳的価値についての考えを深める

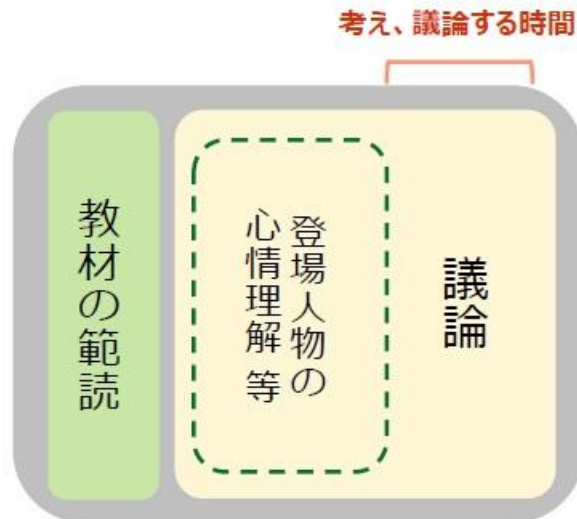
見出した道徳的諸価値について、全員で考え、議論しながら道徳的価値についての考えをより深める

「考え、議論する道德」の実装に向けた具体的な方策について（イメージ）

- 1授業について1つの読み物教材を扱うことが多い道德科の授業については、下記のような課題が指摘されている。
 - ✓ 心情理解や登場人物の整理で時間がかかってしまう
 - ✓ 教材の解釈を中心とした展開になってしまい多面的・多角的に自己の生き方についての考えを深めるところまで辿り着かない
 - ✓ 1コマで読み物と向き合う時間と考え議論を深める時間の双方の時間を十分に確保することが難しい
 - ✓ 教科化に伴い重視している体験的・問題解決的な学習を取り入れ、自分自身との関わりで深める時間を確保することが難しい
- 現行指導要領でも「一つの内容項目を複数の時間で扱う指導を取り入れる」とされているところであり、発達の段階を踏まえつつ、1教材を複数コマで取り扱うことで、「じっくりと深く学ぶ」道德科の学びを一層推進していくことについて、検討してはどうか。

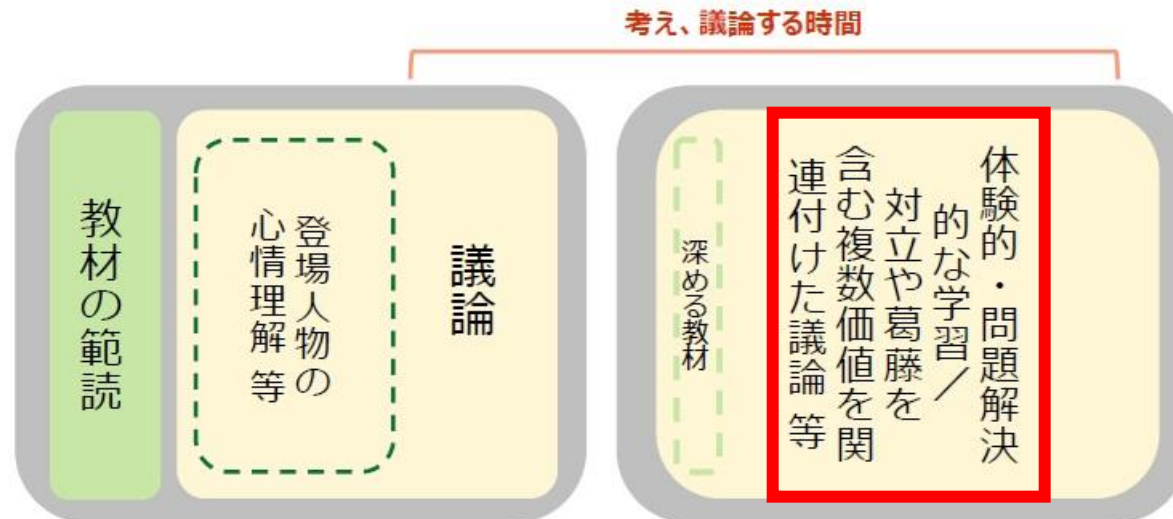
（1教材を1コマで取り扱う場合）

- 時間が足りず深まらない
- 内容項目の関連や対立の可能性が十分に扱えず、多面的・多角的になりづらい
- 体験的・問題解決的な学習にも限界



（1教材を複数コマで取り扱う場合）

- 複数時間を前提とした授業設計の導入により、議論を深めたり、体験的・問題解決的な学習を充実したりすることで、考えの深まりにつなげる
- 同一の題材を考えるにあたって複数の道德的価値を関連付けることにより、多面的・多角的に考えることを促す



- ※ 上記は指導の「型」を示すものではなく、道德科における具体的な学習の過程は多様であることに留意
- ※ 複数コマについては、連続した2コマを想定しているのではなく、翌週の取扱いを念頭
- ※ 2コマ目について、読み物教材ではない、「深める教材」を用いることも想定

(例)複数内容項目

遵法精神、公德心 / 思いやり、感謝

1時間目

遵法精神、公德心

- 教材を読み、登場人物の生き方を考える
- 教材とつながり、自分との関わりで考える

2時間目

思いやり、感謝

- 前時の学習をもとに、新たな教材の場面について考える
- 社会とつながり、自分との関わりで考える

導入
教材の範読

展開
役割演技1
教材を
再現する
全体交流

展開
役割演技2
教材を
解決する
全体交流

道徳的価値について実感する

終末
本時の
振り返り

深める
教材
視点を
ずらした資料
等

考え、議論する
全体交流
例えば・・・
善悪の判断
きまりを守る
思いやり、感謝

終末
本時の
振り返り

自分との関わりで道徳的価値の理解を深めたり、
多面的・多角的な見方へと発展させたりする

(例)複数内容項目

公正、公平、社会正義 / 相互理解、寛容

1時間目

公正、公平、社会正義

- 教材を読み、登場人物の生き方を考える
- 教材とつながり、自分との関わりで考える

2時間目

相互理解、寛容

- 前時の学習をもとに、新たな教材の場面について考える
- 社会とつながり、自分との関わりで考える

導入
教材の範読

考え、議論する
全体交流
例えば・・・
公平であることの難しさ
好き、嫌いの感情から
他者に対する偏見に気づく

終末
本時の
振り返り

深める
教材
視点を
ずらした
資料
等

展開
役割演技
間接的に
体験する
道徳的価値に
ついて実感する

考え、
議論する
全体交流
人間理解
他者理解
あらためて
価値理解

終末
本時の
振り返り

自分との関わりで道徳的価値の理解を深めたり、
多面的・多角的な見方へと発展させたりする

まとめ

- 役割演技は、道徳科の特質を生かした指導方法の工夫としての、体験的な学習の一つの例である。
- 役割演技では疑似体験的な表現活動を通じて、思考のみならず感情や行動にも働きかけられる。
- このため、効果的に実践することで、実感を伴って道徳的価値と向き合い、深い学びに繋がることが期待できる。

留意すべきポイント

- 演技の巧拙ではない
 - ➡道徳的な価値を見出す(演者/観客としての振り返りを通してさらに深める)
- 多様な背景を持つ子供には、配慮が必要である
 - ➡役割を担う 心に傷を負うことは絶対にしない
- 子供が主体的に道徳性について考えるきっかけ
 - ➡50分(45分)に深い学びをもたらす仕掛け / メリハリが必要
 - ➡35時間の学びの在り方にも変化のあるデザインが必要ではないか

引用・参考文献

- 文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』
- 中島義明他編（1999）『心理学事典』有斐閣
- 今野喜清他編（2003）『新版 学校教育辞典』教育出版
- 渡邊真魚（2018）「体験的な活動を取り入れた道徳科の授業構想―役割演技に生かす効果的な活用について―」日本道徳教育学会『道徳と教育』第336号
- 走井洋一編著（2020）『道徳教育の理論と方法』ミネルヴァ書房
- 下司 晶編著（2023）『道徳教育』学文社
- 渡邊真魚（2026）「中学校道徳科における『道徳的行為に関する体験的な学習』プログラムに見る教科内容の特質」『日本教科内容学会誌』第12巻第1号
- 「よみがえれ！安波祭」『ふくしま道徳教育資料Ⅰ 生き抜く・いのち』福島県教育委員会
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/img/kyouiku/attachment/902294.pdf>（2026年4月24日最終閲覧）
- 林泰成（2000）『ケアする心を育む道徳教育 伝統的な倫理学を超えて』北大路書房
- 永田繁雄（2011）「『場面発問』だけの授業から脱却する」『道徳教育』4月号, 明治図書
- 永田繁雄（2014）「道徳授業の発問を変える『テーマ発問』とは」『道徳教育』8月号, 明治図書
- 西野真由美（2020）『新訂 道徳教育の理念と実践』NHK出版